

株式会社 HugHug

ポジティブインパクトファイナンス評価書

2025年3月19日



大垣共立銀行とOKB総研は、株式会社 HugHug（以下、「同社」）に対してポジティブインパクトファイナンス（以下、「PIF」）を実施するにあたって、同社の事業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブインパクト/ネガティブインパクト）を分析・評価した。

この分析・評価は、国連環境計画金融イニシアチブ（UNEP FI）が提唱した PIF 原則および PIF 実施ガイド（モデル・フレームワーク）、ESG 金融ハイレベル・パネルにおいてポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則ったうえで、大垣共立銀行とOKB総研が開発した評価体系に基づいている。

目次

1. 企業概要と経営理念、サステナビリティ.....	1
(1) 株式会社 HugHug の企業概要	1
(2) 株式会社 HugHug の事業概要	3
(3) 経営理念	8
(4) サステナビリティ.....	9
2. インパクトの特定	11
(1) バリューチェーン分析.....	11
(2) インパクトマッピング	11
(3) インパクトレーダーによるマッピング	12
(4) 特定したインパクト.....	14
(5) インパクトニーズの確認、大垣共立銀行との方向性の確認	16
3. インパクトの評価	18
4. モニタリング.....	20
(1) 株式会社 HugHug におけるインパクトの管理体制.....	20
(2) 大垣共立銀行によるモニタリング	20

1. 企業概要と経営理念、サステナビリティ

(1) 株式会社 HugHug の企業概要

企業名	株式会社 HugHug
設立	2012 年 12 月 3 日
代表者名	代表取締役 濱野 喜与子
資本金	100 万円
従業員	19 人（2025 年 2 月時点）
売上高	138 百万円（2024 年 6 月期）
事業拠点	本社（はぐはぐ） 愛知県稲沢市下津下町西三丁目 100 番地 1 はぐはぐ国府宮 愛知県稲沢市正明寺一丁目 12 番地 15 号 はぐはぐ+、SHiP 愛知県稲沢市西町三丁目 4 番 1 号 ぶれんど 愛知県一宮市丹陽町重吉西高代 186 番地 3 みつくす 愛知県稲沢市下津穂所 2 丁目 1 番 5（2025 年 5 月予定） ぷくぷく、+Life 愛知県あま市森一丁目 5 番地 13 号 ぷくぷく希望の丘 愛知県稲沢市下津穂所町 126 番地 3
事業内容	児童発達支援・放課後等デイサービス 就労継続支援 B 型（就労系障がい福祉サービス）
関連会社	株式会社スノーフレーク（児童発達支援・放課後等デイサービス、生活介護）

「はぐはぐ」



＜沿革＞

2012年12月	設立
2013年2月	はぐはぐ 事業開始
2014年12月	株式会社スノーフレーク設立
2016年5月	はぐはぐ国府宮 事業開始
2018年3月	ぶれんど 事業開始
2023年8月	はぐはぐ+ 事業開始
2024年6月	サポートセンターSHiP 事業開始
2024年6月	健康宣言チャレンジ事業所認定
2025年5月	みつくす 事業開始予定



(2) 株式会社 HugHug の事業概要

同社グループは、①児童発達支援事業、②放課後等デイサービス事業、③就労継続支援 B 型事業、④生活介護事業、およびこれらに関する⑤相談支援事業（サポートセンター）を以下の施設で営む。

<事業概要と関連施設>

施設	児童発達支援事業	放課後等デイサービス事業	就労継続支援 B 型事業	生活介護事業	相談支援事業
はぐはぐ	○	○			
はぐはぐ国府宮		○			
はぐはぐ+		○			
ぷくぷく	○	○			
ぷくぷく希望の丘	○	○			
ぶれんど			○		
みつくす			○		
+ Life				○	
SHiP					○

※ 同社は「はぐはぐ」「はぐはぐ国府宮」「はぐはぐ+」「ぶれんど」「みつくす」「SHiP」を運営し、関連会社である株式会社スノーフレックが「ぷくぷく」「ぷくぷく希望の丘」「+Life」を運営している。

【事業内容】

①児童発達支援（対象者：0～6 歳の未就学児）

未就学児を対象として就学に向けた支援を行う。子供の日常生活における基本的な動作や集団生活に適応するための能力を育む。指先を使う活動や体幹トレーニング等を取り入れ、子供が楽しく成長することができる環境を整えている。

また、文字の練習や数の学習、発語訓練、保護者のレスパイト（一時的休息）など、保護者の要望に寄り添い対応している。



②放課後等デイサービス（対象者：6～18 歳の小学生から高校生）

就学中の子供を対象として将来の自立に向けた支援を行う。「楽しく学ぶ」の視点から、毎日のレクリエーションを通じて、SST（ソーシャルスキルトレーニング）やビジョントレーニング等を行い、子供の自発的な成長に繋がるよう工夫している。

また、遊びの工夫や友達との関わり方、からだの動かし方など、「総合的な学びの場」としての空間を提供している。



「はぐはぐ」と「ぶくぶく」、「ぶくぶく希望の丘」では、児童発達支援と放課後等デイサービスにより、主に以下の療育支援を行う。

<身辺自立>

子供たちの将来を見据えて、発達段階に応じた身辺の自立を促している。

「靴下を自分で履けるようになってほしい」「1人でトイレに行けるようになってほしい」「気持ちを伝えられるようになってほしい」といった保護者の要望に寄り添う。家庭での負担が大きくならないよう子供たちの成長を共に支え、毎日繰り返し行うことで生活習慣を身につけていく。

「自分でできることは自分で行う」ことを大切に、時には見守ったり、時には手を差し伸べたり、その子に合わせたペースで支援を行う。

<遊び>

同社では、子供たちの「遊び」による成長を尊重している。「遊び」は、子供たちの健やかな成長にとって、非常に大切であると考えている。

「ルールに従ってゲームを進める」「友達同士でコミュニケーションを取る」「指先を使って、ものを動かす・はめる」など、「遊び」には子供たちを身体的、心理的に成長させる要素が数多くあると考えている。

また、「遊び」を通すことで、児童期の脳の発達に大切な“互換への刺激”を一人ひとりのペースで楽しく体験することができる。子供たちが、自発的に楽しく成長していけるよう様々な種類の「遊び」を提供している。

<学習>

同社では、保護者からの学習面での要望も積極的に対応している。

「ひらがなを読めるようになってほしい」「繰り上がりがある計算が難しい」「宿題をしてから遊ぶ」習慣を身につけたいなど、学習面での課題は個々で異なるが、その課題解決に向けて、個人に合わせたプランを作成し、提案している。子供たちの「できる」ことを大切に、寄り添った支援で、共に成長していきたいと考えている。

③就労継続支援 B 型（対象者：原則 18 歳以上）

原則 18 歳以上を対象に、日常的な生活支援や就労に必要な知識および能力の向上のための訓練、レクリエーションなどを行う。利用者が一人ひとりのできることを伸ばしながら、やりがいをもって働ける場所を提供できるように努めている。「やり遂げた！」という成功体験を重ね、利用者が自信を持って、自分らしく前へ進んでいけるよう支援している。

また、不安や困難にぶつかったときは、それを乗り越える方法を共に考え、自分のペースで前を向けるよう支援体制を整えている。

「ぶれんど」では飲食店を運営しており、同業種での事業所では希少である。他社は基本的に内職事務が中心であり、接客業を経験できることからニーズが高い。

<支援サービスの 1 日の流れ ※同社 HP より抜粋>



9:00	送 迎 ご自宅やグループホーム等までお迎えいたします。	
10:00	仕 事（カフェ・軽作業など） カフェで接客や調理をしたり、内職等の軽作業を行ったりします。	
12:00	昼食・お昼休み 利用者全員でお昼ご飯を食べます。昼食後は、各自休息をとります。	
13:00	仕 事（カフェ・軽作業など） カフェで接客や調理をしたり、内職等の軽作業を行ったりします。	
15:00	片付け・掃除 道具等の片付けや部屋の掃除などを分担して行います。	
15:30	自由時間 利用者さまそれぞれの過ごし方で一日の疲れをリフレッシュします。	
16:00	送 迎 ご自宅やグループホーム等までお送りいたします。	
17:00		

④生活介護

(対象者：原則 18 歳以上で障がい支援区分が 3 以上、ただし 50 歳以上は障がい支援区分が 2 以上)

日常的な生活支援や軽作業、レクリエーション等を通した機能訓練など幅広くサービスを提供している。

また、ダンスや音楽、絵画、工作など、好きなことや得意なことを活かす機会を設け、利用者の生活に“実り”を生むことのできる環境を整えている。

利用者とともに、本人にあったスケジュールや目標を立てるなど、安心して楽しく通所できるよう、一人ひとりの意見を大切にしている。

<生活介護の 1 日の流れ ※同社 HP より抜粋>



8:30	送 迎 ご自宅やグループホーム等までお迎えいたします。	
9:30	健康チェック 利用者様の体調や体温を確認します。	
9:45	ミーティング 一日のスケジュールを確認します。	
10:00	軽作業・創作活動 内職等の作業や絵画、工作、音楽など、利用者さまに合った活動を行います。	
12:00	昼食・お昼休み 利用者皆さままでお昼ご飯を食べます。 昼食後は、各自休息をとります。	
13:00	軽作業・創作活動 内職等の作業や絵画、工作、音楽など、利用者さまに合った活動を行います。	
14:00	レクリエーション 運動や製作活動、季節のイベント等、レクリエーションを行います。	
14:30	ティータイム 利用者の皆さままでおやつを食べながら休憩をします。	
15:00	片付け・掃除 道具等の片付けや部屋の掃除などを分担して行います。	
15:30	送 迎 ご自宅やグループホーム等までお送りいたします。	
16:30		

⑤相談支援事業（サポートセンター）（対象者：原則 0～18 歳の未就学児、小学生から高校生）

本人とその家族が、日常生活を送るうえで必要な福祉サービスをこれから利用する時、又は利用中に相談することができる窓口で、以下のような悩みや疑問に対応している。

- ・福祉サービスを使いたいけれど、どんなサービスや事業所があるかわからない。
- ・うちの場合はどんな福祉サービスが使える？
- ・福祉サービスを使うにはどんな手続きが必要？
- ・そもそもこれからどうしたら良い？



【同社の強み】

- ・ 児童発達支援・放課後等デイサービスから就労継続支援 B 型まで幅広く行い、未就学児が社会人になるまで一連の流れの中でサービス提供が可能。これまでに何百人もの児童を受け入れ十分なノウハウを保有しており、放課後等デイサービスの卒業生を就労継続支援 B 型で受け入れできるスキームが確立されている。
- ・ 就労継続支援 B 型は、他社が行う内職事務ではなく飲食店を営んでおり、接客業の経験ができると高評価を受け、入所希望者は多い。
- ・ 稲沢市をはじめ近隣自治体との関係構築もできており、「困ったら HugHug」と広く認識されている。
- ・ 利用者のリピート率は高く、利用者の保護者からの口コミも相談件数の増加につながっている。

【今後の展開】

- ・ 就労継続支援 B 型事業を拡大する。
2025 年 5 月に内職型の施設「みくす」を開所する予定で、手先が器用な人、接客が苦手な人を受け入れることができる。希望次第では、既存の飲食店（接客）と内職の両方を経験することもできる。
- ・ 障がいの度合いや国籍等を問わず、子供たちを誰でも幅広く受け入れていく。また、保護者のケアも心掛けている。稲沢市社会福祉協議会とも連携を密にしており、市立学校の不登校児の受入れも開始している。稲沢市近隣での同業者は増加傾向にあるものの、まだ不足しているとの行政認識であり、同社の果たす役割は今後も大きい。
- ・ また、代表者の次男が令和 4 年に愛知県知事の指定を受けて行う相談支援従事者初任者研修を修了し、相談員として自治体の窓口を行っていることから相談件数は増加を見込む。

(3) 経営理念

同社は、「誰一人取り残さない社会づくりへ」を基本理念とし、障がい度合いに関係なく極力受け入れができるよう幅広い年齢を対象とし、以下の理念を掲げて、事業活動に取り組んでいる。

経営理念

「できる」を楽しみ「できた」を喜ぶ

同社は、「〇〇がしたい！」「得意なことを活かしたい！」といった利用者や保護者の気持ちに寄り添える存在でありたいと考えている。

一人ひとりの生活環境に適した福祉サービスで安心して生活することができる環境を作り、利用者本人が「できる」を楽しみ、本来の自分を表現できる場所を提供したいとの強い思いを持っている。

「できた」を利用者とともに感じ、喜んでいただくことが同社の喜びでもある。

このため、「はぐはぐの支援」として以下の項目を定め、徹底している。

「はぐはぐの支援」

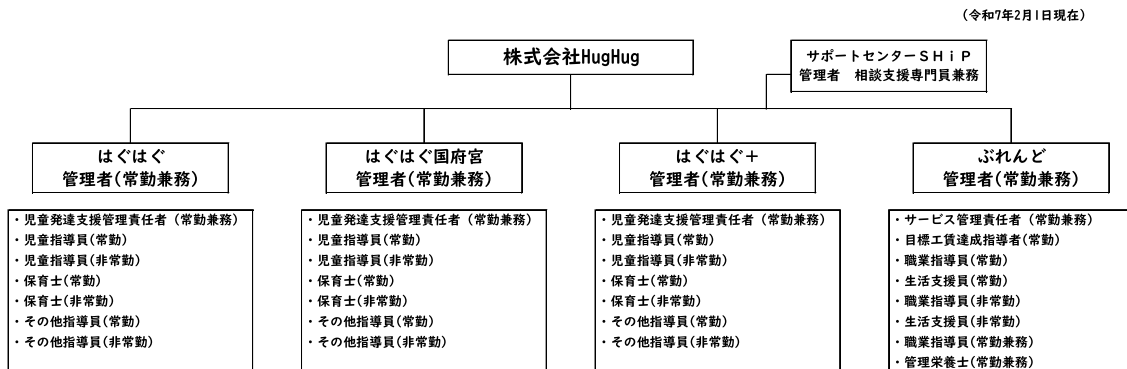
- ①否定的な声かけをせず、肯定的な声かけを徹底する。
- ②できないところだけをサポートし、こどもたちのできることを増やす。
- ③良いところに目を向けるよう心掛け、こどもたちの良いところを伸ばす。
- ④こどもたちが自分で選択する場面を用意し、意思の形成を促す。
- ⑤様々な体験機会を日々計画、提供し、こどもたちの人生を豊かにする。

また、従業員は1ヵ月に1回、下記「不適切チェック表」により虐待等に関するセルフチェックを実施している。

「不適切チェック表」

振り返り期間：R . . . ～ R . . .		記入日 年 月 日		
	チェック項目	評価		
1	以下の3要件に当てはまらない、必要のない拘束をしていないか。 ①一時性：身体拘束その他の行動制限が一時的であること ②切迫性：利用者本人又は他の利用者等の生命、身体、権利が危険にさらされる可能性が著しく高いこと ③非代替性：身体拘束や行動制限を行う以外に代替する方法がないこと	☐ していない	☐ してしまった	☐ 見た(聞いた)
2	「もう！」「なんでわからないの？」「ちゃんとやって。」など、感情的であったり、丁寧に聞こえない言動や態度をとっていないか。 ※こどもに対して	☐ していない	☐ してしまった	☐ 見た(聞いた)
3	「そのくらいわかるでしょ？」「はあ？」「なんて？」など、感情的であったり、丁寧に聞こえない言動や態度をとっていないか。 ※スタッフに対して	☐ していない	☐ してしまった	☐ 見た(聞いた)
4	「この子なら大丈夫だろう。」と子どもから目を離していないか。	☐ していない	☐ してしまった	☐ 見た(聞いた)
5	部屋を出る時、残るスタッフに声かけをせずに出ていないか。	☐ していない	☐ してしまった	☐ 見た(聞いた)
6	「ファイルを出してあげる」「水筒を持ってきてあげる」などの手伝いすぎによって、こどもの自立のための練習の機会を奪っていないか。	☐ していない	☐ してしまった	☐ 見た(聞いた)
7	支援中、裏面【支援中の注意点】に反した支援をしていないか。 してしまった場合その項目番号 → (A.)	☐ していない	☐ してしまった	☐ 見た(聞いた)
8	車を運転する際、裏面【運転時の注意点】に反した運転をしていないか。 してしまった場合その項目番号 → (A.)	☐ していない	☐ してしまった	☐ 見た(聞いた)

【組織図】



(4) サステナビリティ

同社はSDG s 宣言を定め、これを指針として課題に取り組んでいる。

「SDG s 宣言」

サービス

こどもたちの意思形成を促すことを重視した児童発達支援・放課後等デイサービス「はぐはぐ」や就労継続支援「ぶれんど」の運営を通じて、ご利用者様や保護者様が安心して生活を送れる環境を整え、地域社会に貢献してまいります。

環境

廃棄物の削減や省エネ、CO2 削減を推進し、次世代に豊かな環境を残すため、地域環境の保全と循環型社会の構築に取り組んでまいります。

人権・働きがい

「誰一人取り残さない社会づくりへ」という理念のもと、施設の利用者様だけでなく従業員も含め、会社に関わる全ての人が社会の一員として活躍できる環境づくりに取り組んでまいります。

地域貢献

地域住民や自治体との関係・繋がりを大切にした事業活動を通じて、地域と共に成長し社会に貢献できる企業を目指してまいります。

それぞれの重点項目(マテリアリティ)において、具体的には以下のような取り組みを行っている。

① サービス

- 日常生活における基本的な動作や集団生活に適応するための能力を育み生活力の向上を支援
- ご利用者様一人ひとりのお考えやご要望に寄り添ったサービスの提供
- 障がいの有無や年齢問わず誰もがやりがいを持って働ける環境の整備



② 環境

- LED 照明や省エネ設備導入による CO2 削減の実施
- 成長療育支援システムの導入等デジタル化による紙使用量の削減
- ペットボトルや牛乳パックなどを利用した工作による廃棄物の削減および 3R に対する意識向上のサポート



③ 人権・働きがい

- 年齢や性別、国籍について分け隔てない採用
- 産休・育休制度等による誰もが活躍できる環境の整備
- ワーク・ライフ・バランス実現のための柔軟な勤務体系の構築
- 外部研修への積極的な参加等による従業員のスキル向上支援



④ 地域貢献

- 稲沢市を中心に支援施設の設置拡大
- 地元保育園への継続的な寄付、協力
- 行政と連携した支援を要する方へのサポートの推進
- カフェ事業における地産地消を意識した地元食材の積極的な使用



⑤ その他

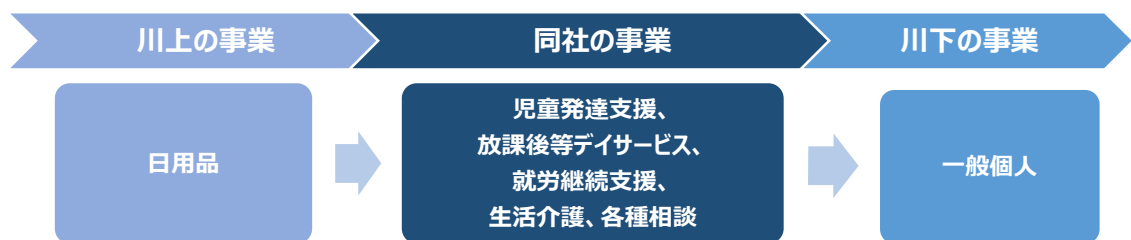
- 幼児の交通安全ポスター「おやこでまもろう こうつうあんぜん」への協賛金拠出
- カフェ事業での地元野菜の販売



2. インパクトの特定

(1) バリューチェーン分析

- 同社、および関連会社は、児童発達支援事業、放課後等デイサービス事業、就労継続支援 B 型事業、生活介護事業、相談支援事業（サポートセンター）を営む。
- 就労継続支援 B 型事業については、内職事務を中心としながらカフェでの接客も行っており、今後、作業内容の拡大を検討している。
- 以上を踏まえた同社のバリューチェーンは以下の通りである。



(2) インパクトマッピング

- 大垣共立銀行は、先述のバリューチェーン分析の結果をもとに、インパクトマッピングを実施し、UNEP FI が提供するインパクトレーダーを用いて「ポジティブインパクト」（以下 PI ）と「ネガティブインパクト」（以下 NI ）を想定する。
- 同社の主要な事業として、「宿泊施設のない高齢者・障がい者向け社会事業（国際標準産業分類：8810）」、「宿泊施設のないその他の社会事業（同：8890）」を取り上げる。
- 川上の事業は、施設で使用する日用品や玩具の仕入であり、「その他の家庭用品卸売業（同：4649）」を取り上げるが同社が与えるインパクトが無いため、インパクトの特定は行わない。
- 川下の事業は、取引相手が一般個人であるためインパクトの特定は行わない。

(3) インパクトレーダーによるマッピング

バリューチェーン	川上事業		同社事業			
	その他の家庭用品卸売業 (4 6 4 9)		宿泊施設のない高齢者・ 障がい者向け社会事業 (8 8 1 0)		宿泊施設のないその他の社会事業 (8 8 9 0)	
インパクト	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative
水						
食料						
住居						
健康・衛生	●		●		●	
教育						
雇用	●	●	●●	●	●●	●
エネルギー						
移動手段						
情報						
文化・伝統						
人格と人の安全保障			●		●	
正義						
強固な制度・平和・安定						
水（質）		●				
大気		●				
土壌						
生物多様性と生態系サービス		●				
資源効率・安全性						
気候		●				
廃棄物		●		●		●
包括的で健全な経済						
経済収束						

「●●」は重要な影響があるカテゴリを示す

「●」は影響があるカテゴリを示す

発現したインパクトについて、同社事業について、カテゴリ毎の対応するSDGsターゲットを整理する。

	カテゴリ	インパクト		取組内容	対応するSDGs
		PI	NI		
同社	社会	健康・衛生	○	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮がなされ、適切な人員により運営している。 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している。 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応を行っている。	3.8
		雇用	○	「就労継続支援B型事業」拡大により、利用者の就労機会や労働スキル習得を支援する。 従業員の時間外労働はほとんど発生せず、健康経営優良法人の取得により、従業員が働きやすい環境を整備している。有給取得日数の増加を検討している。 「介護福祉士」など業務に必要な資格取得支援を行っている。 女性従業員の活用等、ダイバーシティを推進していく方針である。 コンプライアンス研修等を定期的実施し、コンプライアンスを意識したサービス提供を行っている。	8.5 8.6 8.8
		人格と人の安全保障	○	子どもの発達支援や成人の就労支援事業を通じて利用者の自立をサポートしている。 年に一度、外部から講師を招き虐待防止・権利擁護についての研修を定期的に行っている。 ヒヤリハット事例集を作成し、事業所内で共有している。	10.2
	環境	気候	○	事業所のCO2排出量の算定、削減計画の策定を予定している。 今後は営業車のEV、ハイブリッド車への切り替えを順次行っていく方針である。	13.3
		廃棄物	○	社内事務のDX化を実施し、紙書類のペーパーレス化に取り組んでいる。 使用済みペットボトルや牛乳パックを、児童の工作等で使用する等、廃棄物削減に取り組んでいる。	12.5

※インパクトレーダーで発現したインパクトのうち、上記表に不記載のインパクトは、同社の事業と関連性が低いと判断し、評価対象外とした。

※「気候」のインパクトは、インパクトレーダーでは発現しなかったが、同社の取組を踏まえ、個別に追加した。

(4) 特定したインパクト

以上を踏まえて、同社のインパクトを ESG（環境・社会・ガバナンス）毎に特定した。

環境（Environment）

環境に配慮した経営の推進

- 同社は、2024 年に SDGs 宣言を行い、地球環境の保全と循環型社会の構築に向けて省エネ、CO2 削減、廃棄物削減を推進していく方針である。
- 具体的には、事業所の LED 導入による CO2 排出量削減、療育施設向けの運営ソフトウェアである成長療育支援システム導入によるペーパーレス化の推進、使用済のペットボトルや牛乳パックを工作材料として再利用することによる廃棄物削減に取り組んでいる。
- 本件を機に、自社の CO2 排出量の算出、および排出量削減計画を策定し、送迎車をハイブリッド車に切り替えることなどによる CO2 排出量削減に取り組む方針である。
- このインパクトは UNEP FI のインパクトレーダーでは、「気候」のカテゴリに該当し、環境面の NI を縮小すると考えられる。
- SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
13.3：気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。

社会（Social）

「誰一人取り残さない社会」の実現への貢献

- 同社は、子どもの発達支援（児童発達支援、放課後デイサービス事業）から就労支援まで、年齢や各利用者の保護者の要望によって長期的かつ細やかな療育が可能である。そのため、利用者の保護者を主体とした口コミや稲沢市をはじめとした近隣の自治体の相談員からの紹介が多く、利用希望者は年々増加傾向にある。
- 同社は、日常的な生活支援や就労に必要な知識および能力の向上のための訓練等を行うための就労支援 B 型の飲食店を運営しており、接客業を経験できることから利用ニーズが高い。主要な事業エリアである「稲沢市」が策定した「稲沢市障がい福祉計画」においても、雇用・就労支援の充実を基本目標に掲げており、就労支援 B 型のニーズは高く、同社は 2025 年 5 月頃に新たな「就労継続支援 B 型施設」を開設し、自治体や利用者の保護者のニーズに応えていく。
- このインパクトは UNEP FI のインパクトレーダーでは、「雇用」、「人格と人の安全保障」のカテゴリに該当し、社会面の PI を拡大すると考えられる。
- SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
8.5：2030 年までに、若者や障がい者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一労働同一賃金を達成する。
10.2：2030 年までに、年齢、性別、障がい、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、全ての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する。

働きやすい職場環境の提供

- 同社は、「介護福祉士」など業務に必要な資格取得支援、研修への積極参加等、人材教育や育成に注力している。時間外労働はほとんど発生していない。有給休暇取得率は 61%であり、今後は更なる取得率引上げを推進するなど、業務効率化や積極的な人材採用による人員を確保し、働きやすい環境を整備していく。
- 一方で、定期的なハラスメント対策の講習等の実施、健康経営優良法人の認定取得による、従業員の心身のケアにも注力している。
- また、女性が働きやすい環境を提供するため、「あいち女性輝きカンパニー」など認証取得を検討していく。
- このインパクトは UNEP FI のインパクトレーダーでは「雇用」のカテゴリに該当し、社会的側面の PI を拡大、NI を縮小すると考えられる。
- SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
 - 8.5：2030 年までに、若者や障がい者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一労働同一賃金を達成する。
 - 8.8：移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、全ての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する。

企業統治（Governance）

コンプライアンスを重視した事業運営

- 同社は、社内体制や支援内容、関係機関や保護者との連携、非常時の対応等について、「放課後等デイサービス事業所における自己評価」を実施し、同社 HP 内で開示している。
- また、従業員向けにはコンプライアンス関連の研修等を定期的 to 実施し、従業員一人ひとりが法令遵守の意識を持つことで、より良いサービスを提供している。
- このインパクトは UNEP FI のインパクトレーダーでは「雇用」のカテゴリに該当し、社会的側面の PI を拡大、NI を縮小すると考えられる。
- SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
 - 8.5：2030 年までに、若者や障がい者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一労働同一賃金を達成する。

(5) インパクトニーズの確認、大垣共立銀行との方向性の確認

①国内におけるインパクトニーズ

- 国内における「SDGs インデックス&ダッシュボード」を参照し、国内のインパクトニーズと同社のインパクトを確認する。
- 上記工程を経て特定した、同社のインパクトにおける SDGs は、「8. 包摂的かつ持続可能な経済成長及び全ての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する」、「10. 各国内及び各国間の不平等を是正する」、「13.気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」に対して、国内における SDGs ダッシュボードでは、「13」において大きな課題が残る、「8、10」において課題が残るまたは重要な課題が残っており、国内のインパクトニーズと同社のインパクトが一定の関係性があることを確認した。

日本

OECD加盟国



戻る 概要 指標 ファクトシート 政策努力



SDGダッシュボードとトレンド

目標をクリックすると詳細情報が表示されます。



ダッシュボード: ●SDG達成 ●課題は残る ●大きな課題は残る ●大きな課題は残る ●情報がありません

トレンド: ↑SDG達成は順調または維持中 ↓中程度に改善 →停滞 ↓減少 **トレンド情報は利用できません

②愛知県におけるインパクトニーズ

- 同社の事業エリアが愛知県であることから、愛知県における「SDGs 未来都市計画」を参照し、SDGs 達成に向けての課題を確認した。

愛知県 SDGs 未来都市計画 –SDGs の推進に資する取組（抜粋）–
○中小企業の持続的発展に向けた支援 「100 年に一度の変革期」に直面している自動車関連の中小企業や、デジタル化の進展により大きく変化する産業構造の中にある中小企業が持続的に発展していくため、新事業展開やデジタル技術活用の支援を行う。 ○若者・女性・外国人の活躍促進 若者が社会で活躍できるよう、企業における若者の就労や職場定着の取組を支援する。 経営者の意識改革やワーク・ライフ・バランスの推進、保育サービスの充実、女性の企業や再就職支援など、働く場における女性の活躍を促進する。 ○「あいち地球温暖化防止戦略 2030」の推進 地球温暖化防止に関する取組を総合的かつ計画的に推進する。

③大垣共立銀行が認識する社会課題との整合性

- 大垣共立銀行は、「サステナビリティ基本方針」において「地域経済の持続的成長」「地域のイノベーション支援」「多様な人材の活躍推進」「気候変動対応、環境保全」「地域資源の活用」「コーポレートガバナンスの高度化」の6つを重点課題（マテリアリティ）としている。
- 同社の特定したインパクトは以下の通り、大垣共立銀行の重要課題（マテリアリティ）と方向性が一致する。

同社の特定したインパクト	大垣共立銀行の重要課題（マテリアリティ）
環境に配慮した経営の推進	気候変動対応、環境保全
「誰一人取り残さない社会」の実現への貢献	地域経済の持続的成長
働きやすい職場環境の提供	多様な人材の活躍推進
コンプライアンスを重視した事業運営	コーポレートガバナンスの高度化

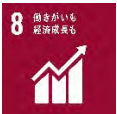
3. インパクトの評価

ここでは、特定したインパクトの発現状況を今後も測定可能なものにするため、PI の拡大、NI の緩和・管理が適切になされるかを評価し、特定したインパクトに対し、それぞれに KPI を設定する

環境に配慮した経営の推進

項目	内容
インパクトの種類	環境的側面において NI を縮小
カテゴリ	「気候」
関連する SDGs	
内容・対応方針	送迎車両の環境対応車への切り替えや LED 導入などにより、カーボンニュートラル実現に向けた取り組みを推進する
KPI	・2025 年度までに温室効果ガス排出量の算定を開始し、2033 年度までに 2025 年度比 30%削減する ・ハイブリッド車など環境対応車を、2029 年度までに 4 台、2033 年度までに 8 台導入する (2023 年度実績：保有自動車数 14 台、うち環境対応車数 0 台)

「誰一人取り残さない社会」の実現への貢献

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面において PI を拡大
カテゴリ	「雇用」「人格と人の安全保障」
関連する SDGs	 
内容・対応方針	既存の就労継続支援 B 型事業所「ぶれんど」（接客型）と業務内容が異なる新たな事業所「みっくす」（内職型）を開所し、一人ひとりの「できる」に合った支援環境を、より多くの人たちへ提供する
KPI	・就労継続支援 B 型事業所「みっくす」の売上高を、2028 年度までに 25 百万円以上にする（開所前のため実績なし） 以降については改めて目標を設定する

働きやすい職場環境の提供

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面において PI を拡大 社会的側面において NI を縮小
カテゴリ	「雇用」
関連する SDGs	
内容・対応方針	有給休暇取得制度の見直しや育児・介護に係る休業・復職支援等に取り組む等 ワーク・ライフ・バランスを推進し、心身ともに安心して働ける職場環境を作る
KPI	・2027 年度までに従業員の平均有給休暇取得率を 70%以上にする (2023 年度実績 : 61%) 以降については改めて目標を設定する ・2025 年度までに健康経営優良法人認定を取得し、以降継続する ・2026 年度までに「あいち女性輝きカンパニー」認証を取得し、以降継続する

4. モニタリング

(1) 株式会社 HugHug におけるインパクトの管理体制

- 同社では、濱野社長を中心に、本 PIF におけるインパクトの特定並びに KPI の策定を行った。
- 今後については、本件にかかる責任者を濱野社長とし、SDGs の推進、並びに、本 PIF で策定した KPI の管理を行っていく方針である。

(2) 大垣共立銀行によるモニタリング

- 本 PIF で設定した KPI および進捗状況については、同社と大垣共立銀行の担当者が定期的な場を設けて情報共有する。少なくとも年に 1 回実施するほか、日々の情報交換や営業活動を通じて実施する。

【留意事項】

1. 本評価書の内容は、大垣共立銀行とOKB総研が現時点で入手可能な公開情報、同社から提供された情報や同社へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況を評価したものであり、将来における実現可能性、ポジティブな成果等を保証するものではありません。
2. 大垣共立銀行、およびOKB総研が本評価に際して用いた情報は、大垣共立銀行およびOKB総研がその裁量により信頼できると判断したものではあるものの、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、および特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明または保証をするものではありません。
3. 本評価書に関する一切の権利はOKB総研に帰属します。評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えての使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳および翻案等を含みます）、または使用する目的で保管することは禁止されています。